

劇症型溶血性レンサ球菌感染症の増加（IASRより）

IASR

A群溶血性レンサ球菌による劇症型溶血性レンサ球菌感染症の50歳未満を中心とした報告数の増加について（2023年12月17日現在）

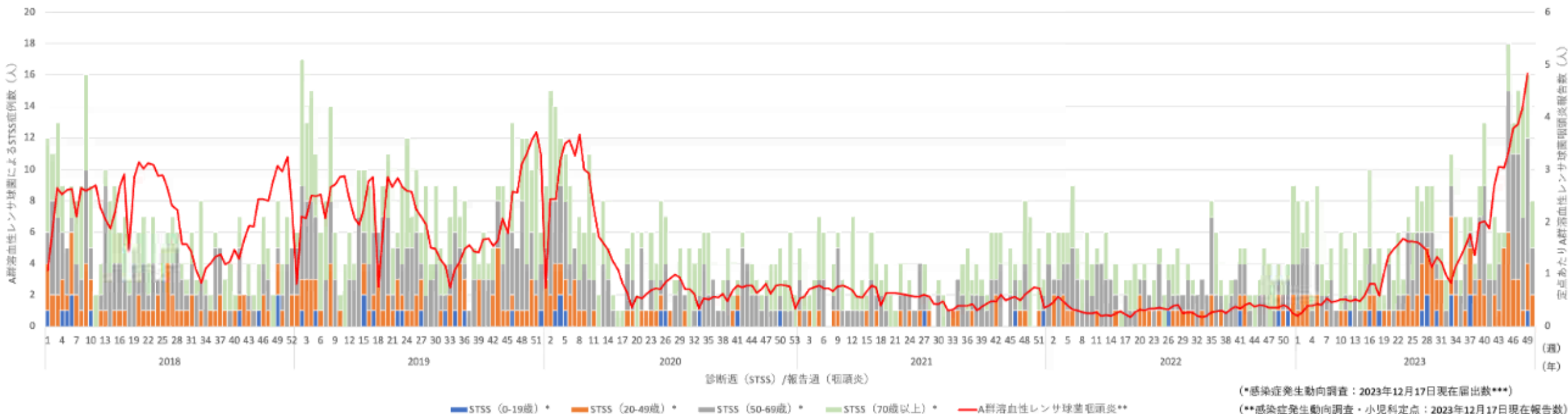
(速報掲載日 2024/1/15)

(2024年1月24日黄色部分修正)

背景・目的

劇症型溶血性レンサ球菌感染症（streptococcal toxic shock syndrome: STSS）は、急激かつ劇的な病状の進行を特徴とする致命率の高い感染症である。STSSは、感染症法に基づく感染症発生動向調査において、5類全数把握疾患と定められている。届出に必要な要件は、ショック症状に加えて肝不全、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、播種性血管内凝固症候群、軟部組織炎、全身性紅斑性発疹、中枢神経症状のうち2つ以上をとともない、かつ通常無菌的な部位（血液など）等からβ溶血を示すレンサ球菌が検出されることであり、要件を満たすと診断された場合、届出対象となる。STSSの病原菌は、A群溶血性レンサ球菌（group A *Streptococcus*: GAS, *Streptococcus pyogenes*）の他、B群、C群、G群の溶血性レンサ球菌などがある。本稿では、感染症発生動向調査上、STSSとして届出された症例のうちGASによる症例（以下、GASによるSTSS症例）について述べる。

図. 日本国内における劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (STSS) として届出された症例のうちA群溶血性レンサ球菌 (GAS) による症例数 (2018年第1週～2023年第50週) と A群溶血性レンサ球菌 (GAS) 咽頭炎報告数 (2018年第1週～2023年第49週) の推移



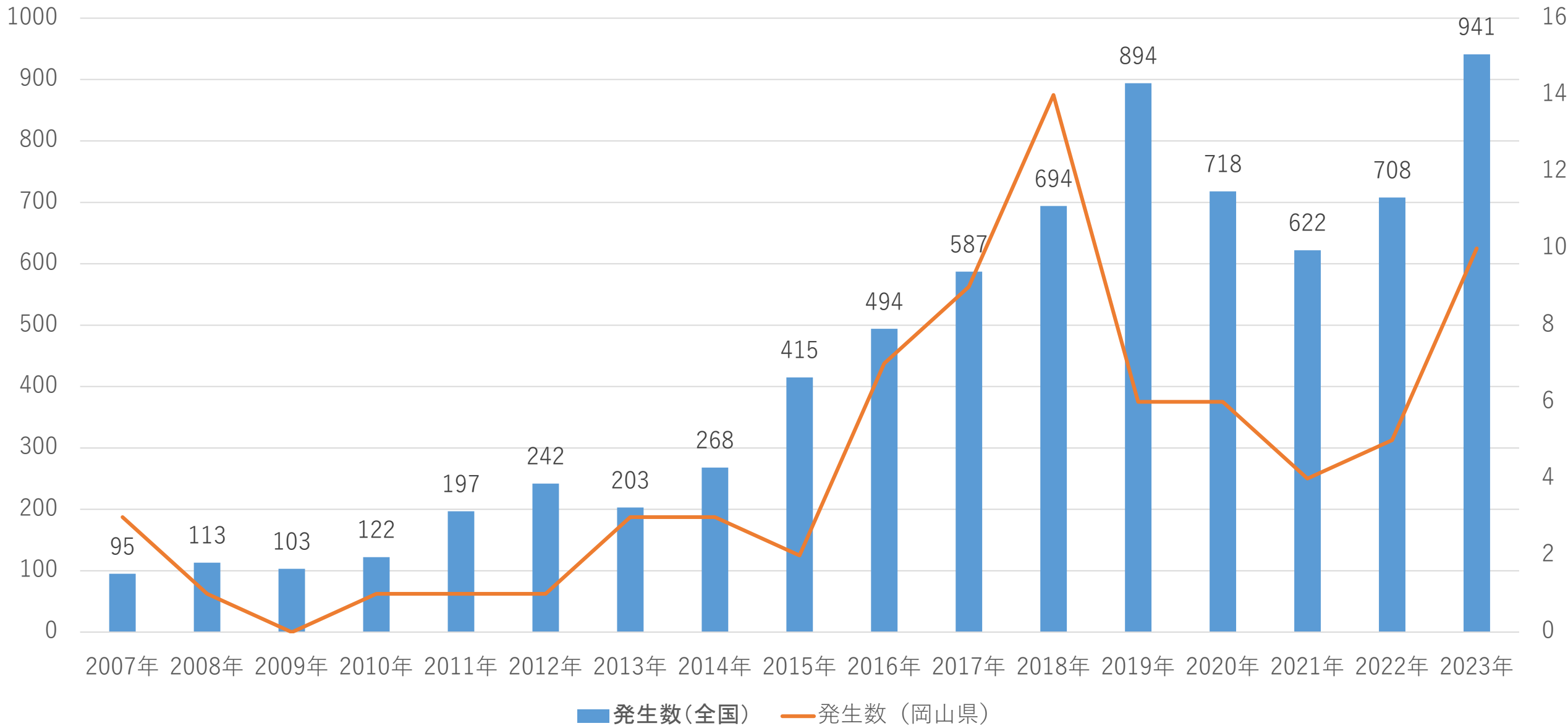
(*感染症発生動向調査：2023年12月17日現在届出数***)
 (**感染症発生動向調査・小児科定点：2023年12月17日現在報告数)

***直近の報告は遅れて報告される症例があり、グラフに反映されにくいいため、解釈には注意が必要である

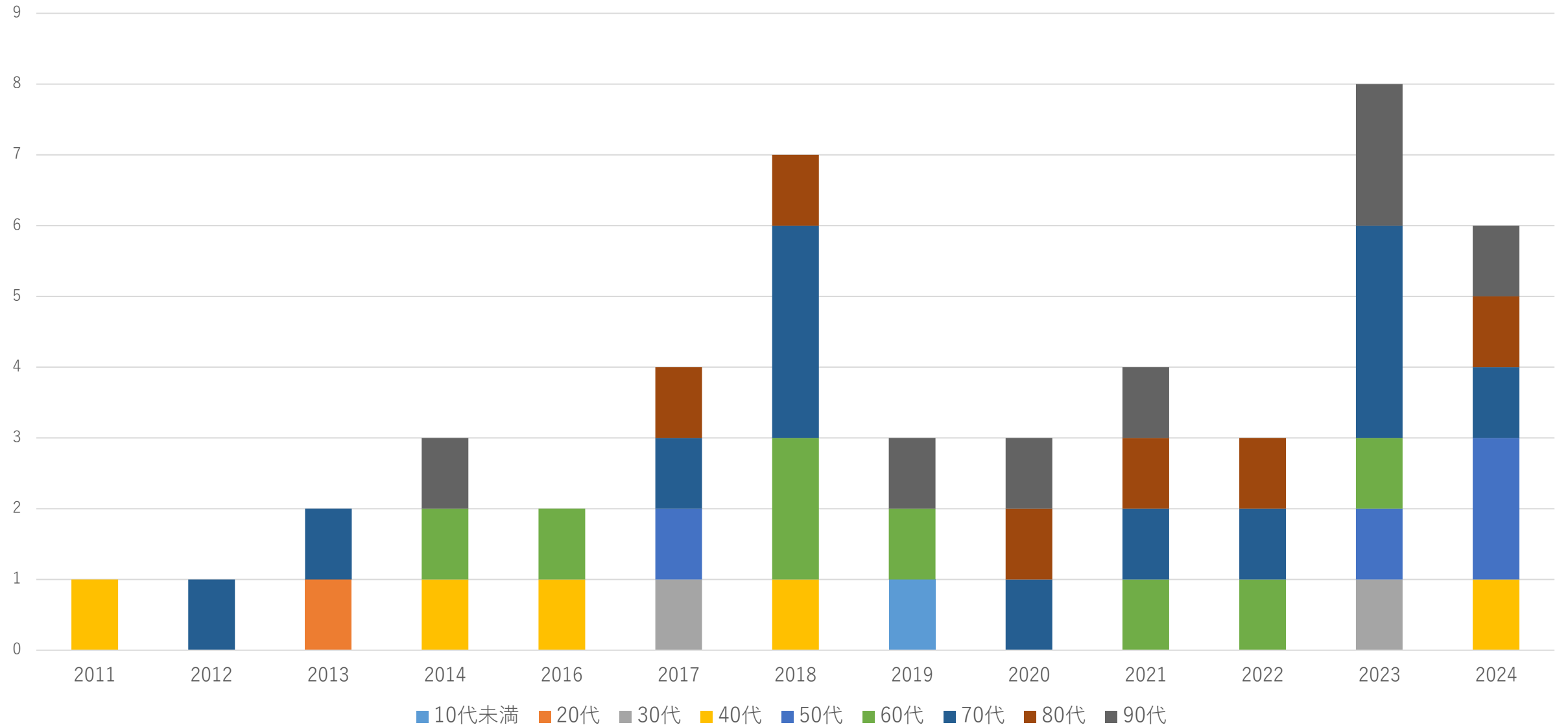


出典：国立感染症研究所
 A群溶血性レンサ球菌による劇症型溶血性レンサ球菌感染症の50歳未満を中心とした報告数の増加について (2023年12月17日現在)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/group-a-streptococcus-m/group-a-streptococcus-iasrs/12461-528p01.html>

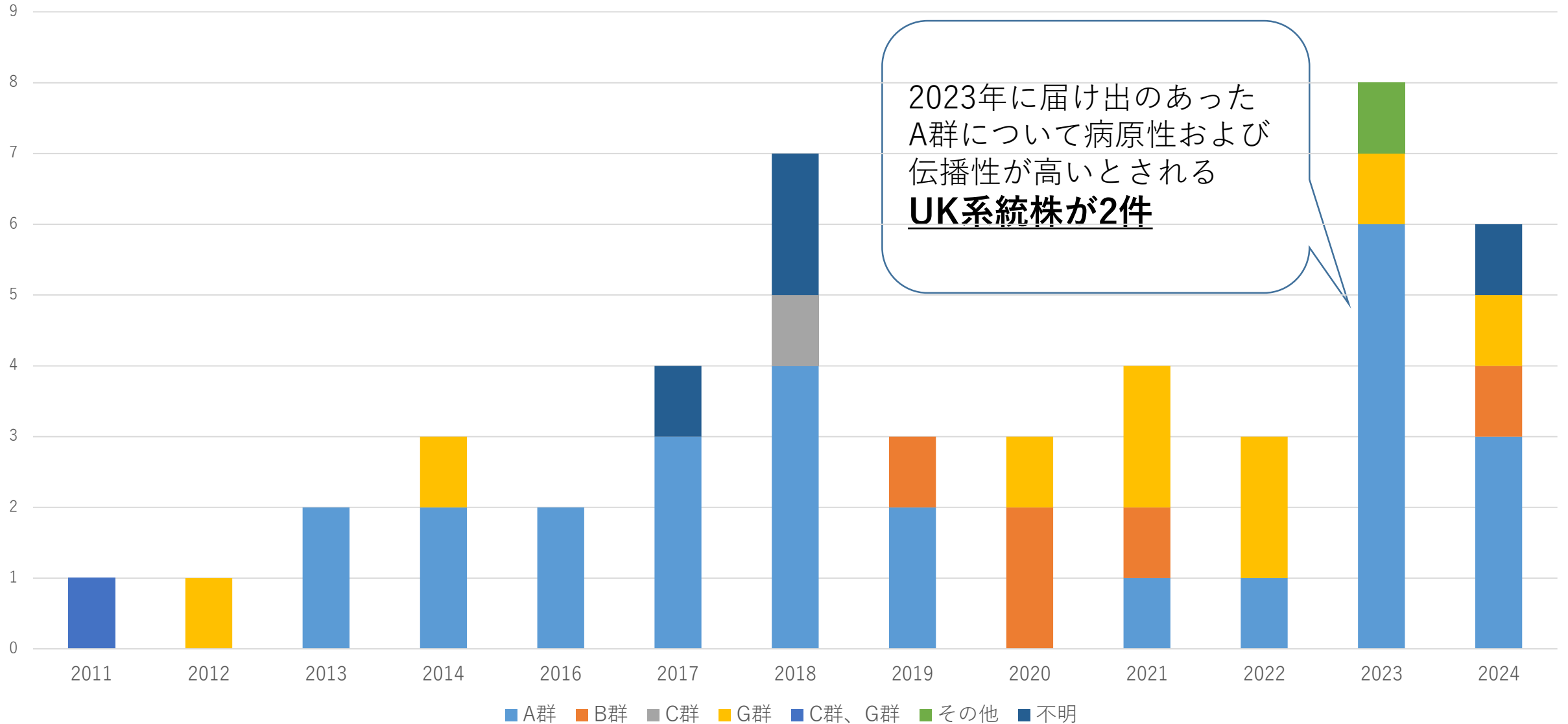
劇症型溶血性レンサ球菌感染症の発生数（全国・県）



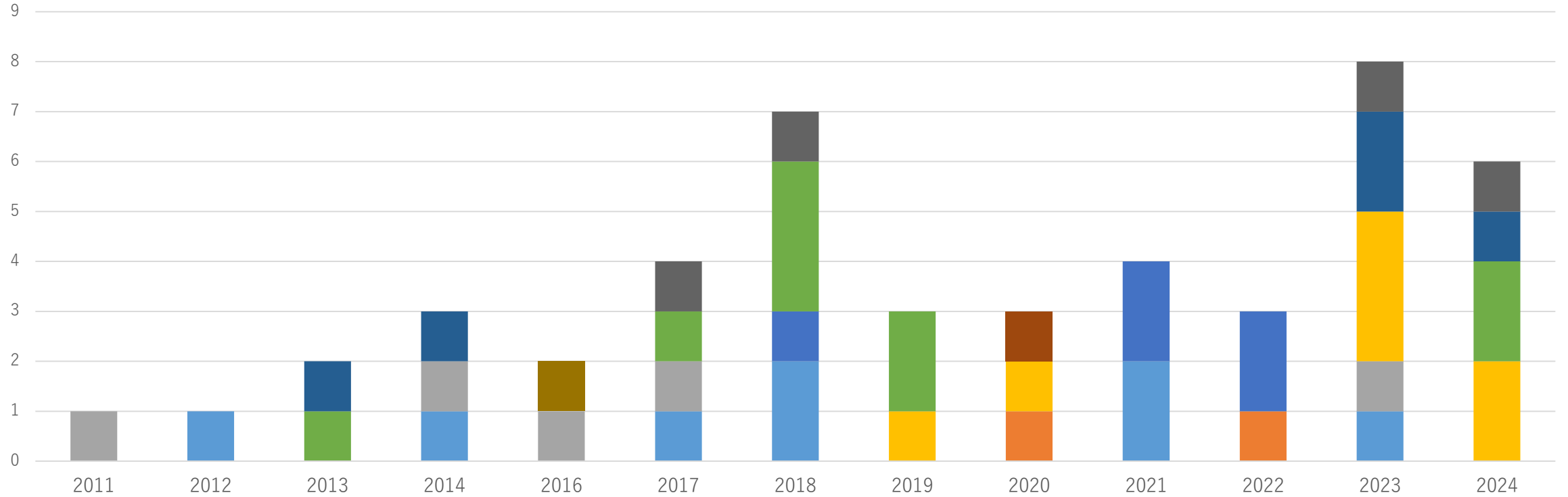
劇症型溶血性レンサ球菌感染症の発生動向（市）



血清群別推移



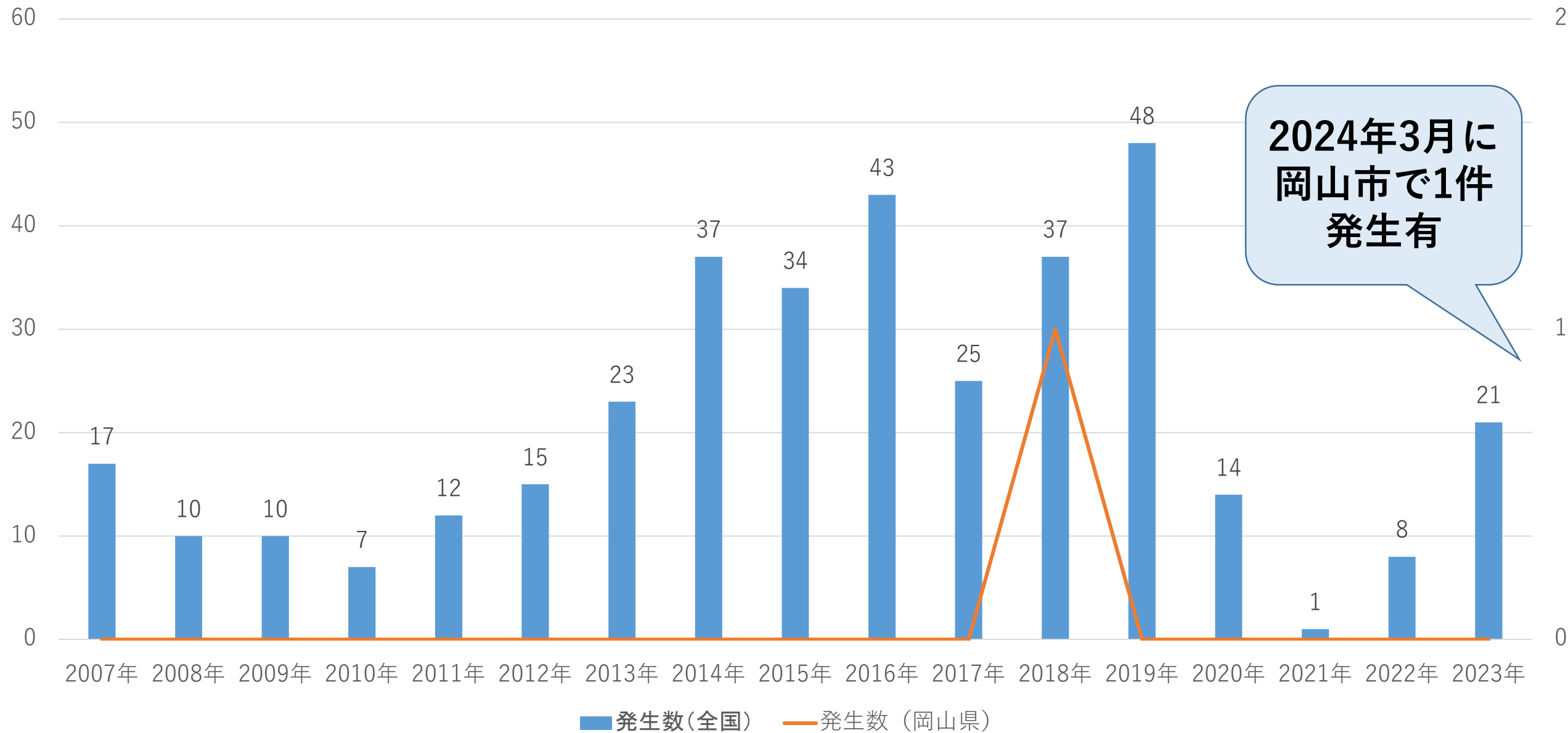
届出医療機関



- 岡山医療センター
- 岡山済生会総合病院
- 岡山赤十字病院
- 岡山労災病院
- 川崎医科大学総合医療センター

- 岡山協立病院
- 岡山市立市民病院
- 岡山大学病院
- 岡村一心堂病院
- 川崎医科大学附属川崎病院

侵襲性髄膜炎菌感染症の発生動向（全国・県）



侵襲性肺炎球菌感染症の発生動向 (全国・県)

(iii) 侵襲性肺炎球菌感染症

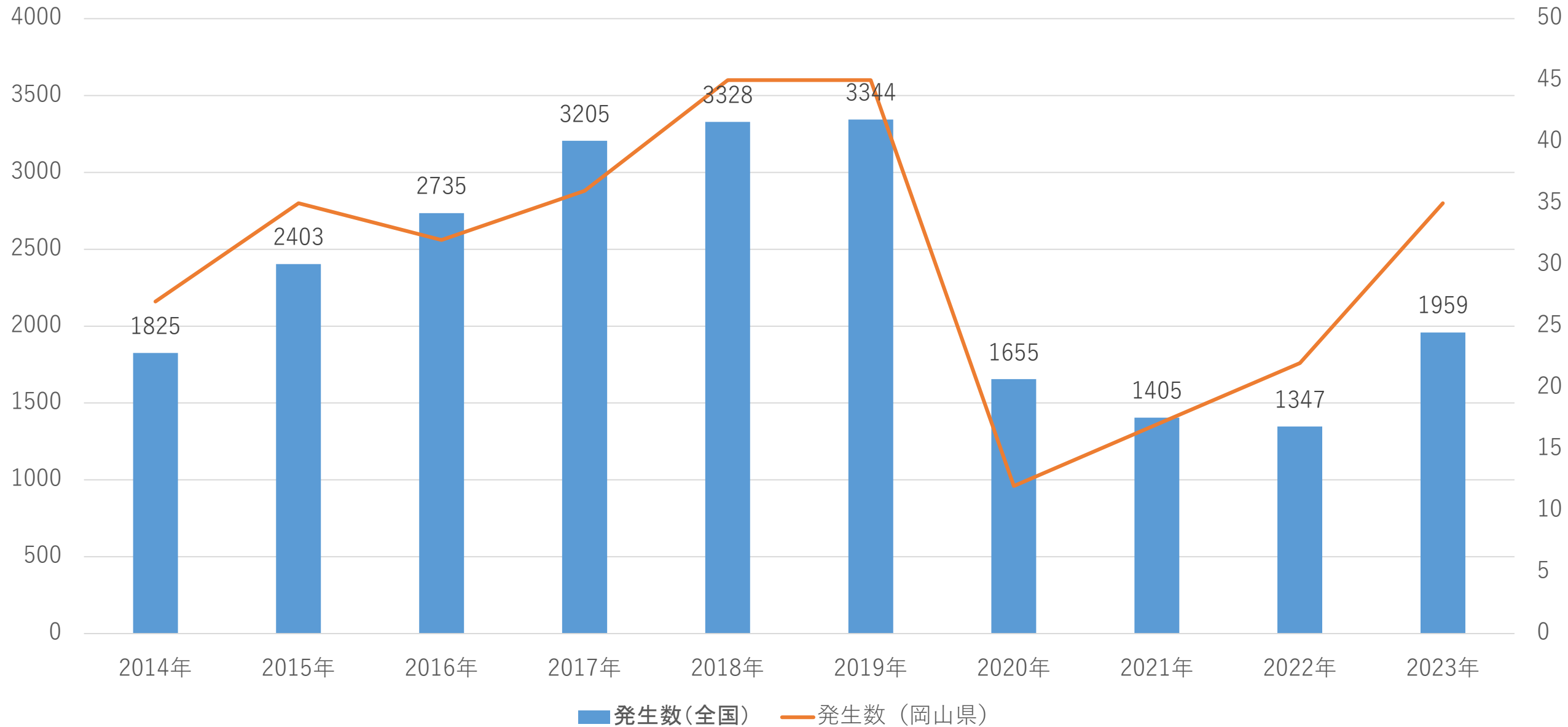
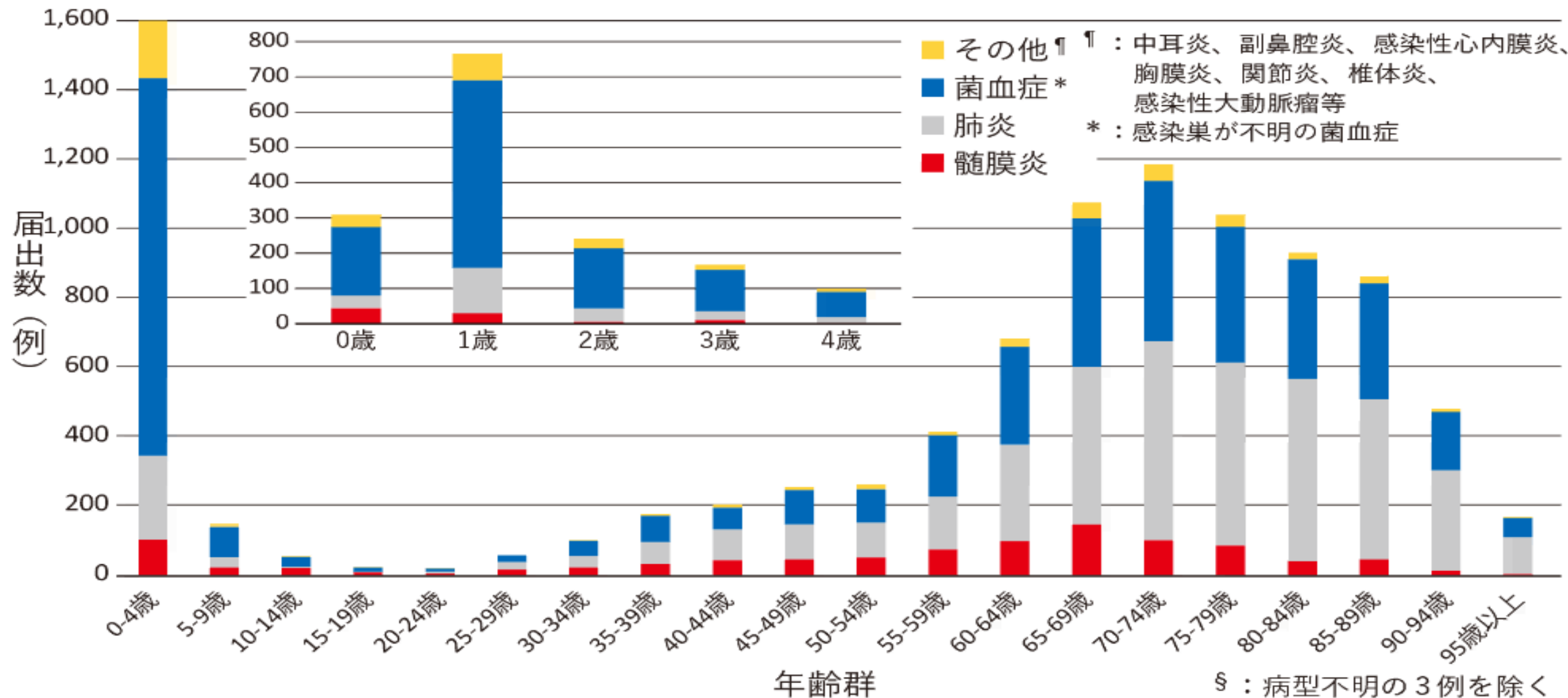
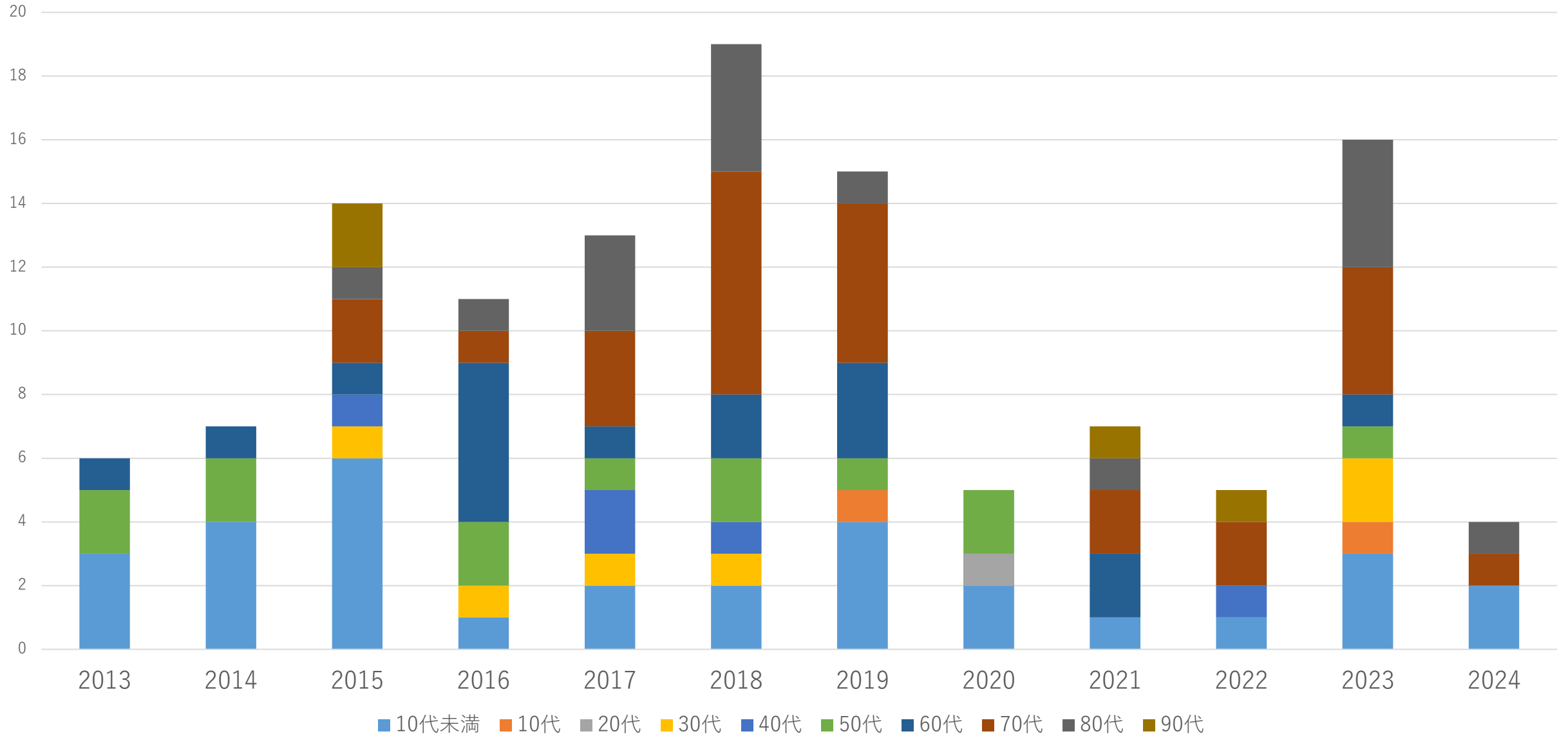


図2. 年齢群・病型別の侵襲性肺炎球菌感染症届出数、2018～2021年 (n=9,720[§])

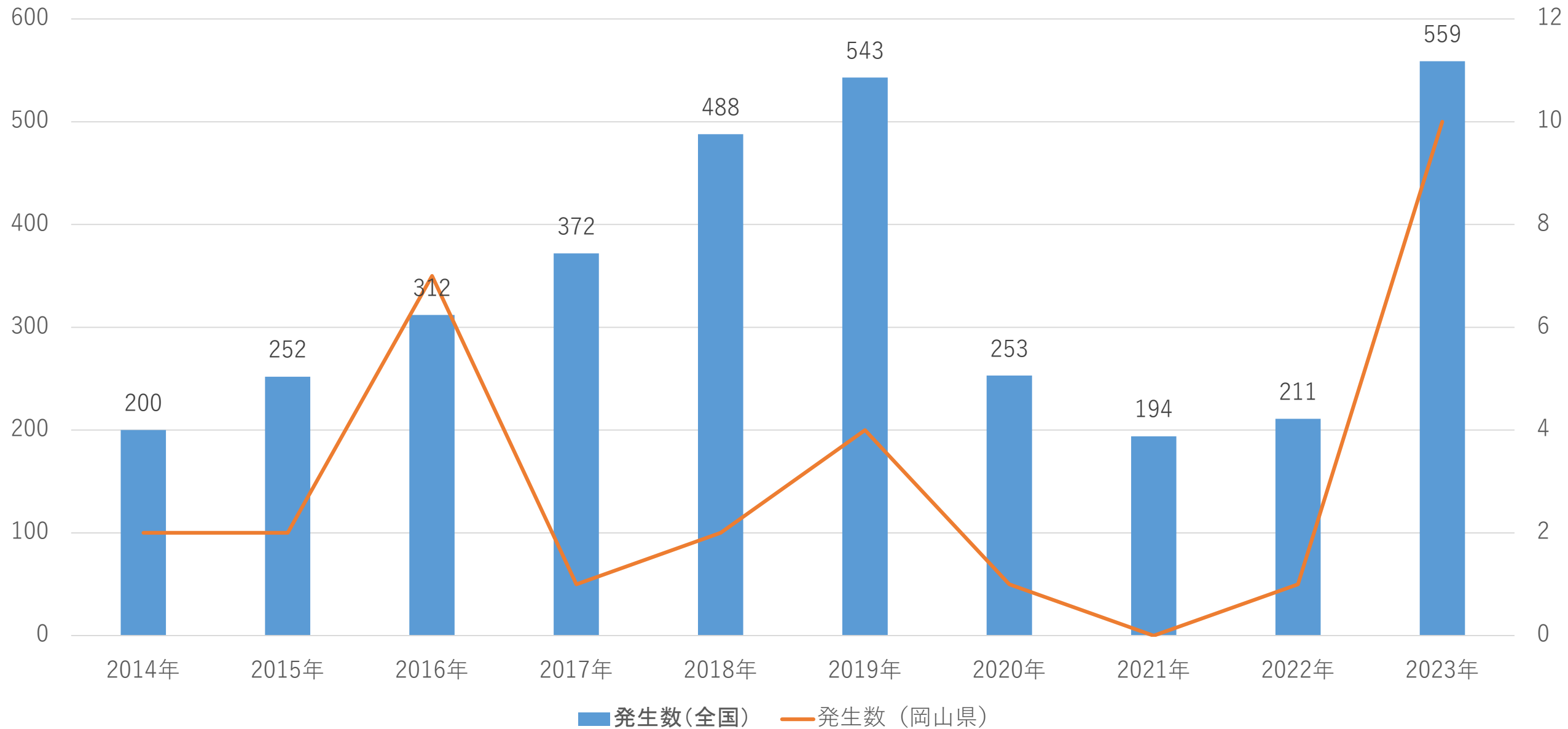
§ : 病型不明の3例を除く
 (感染症発生動向調査: 2022年10月19日現在)

侵襲性肺炎球菌感染症の発生動向 (市)

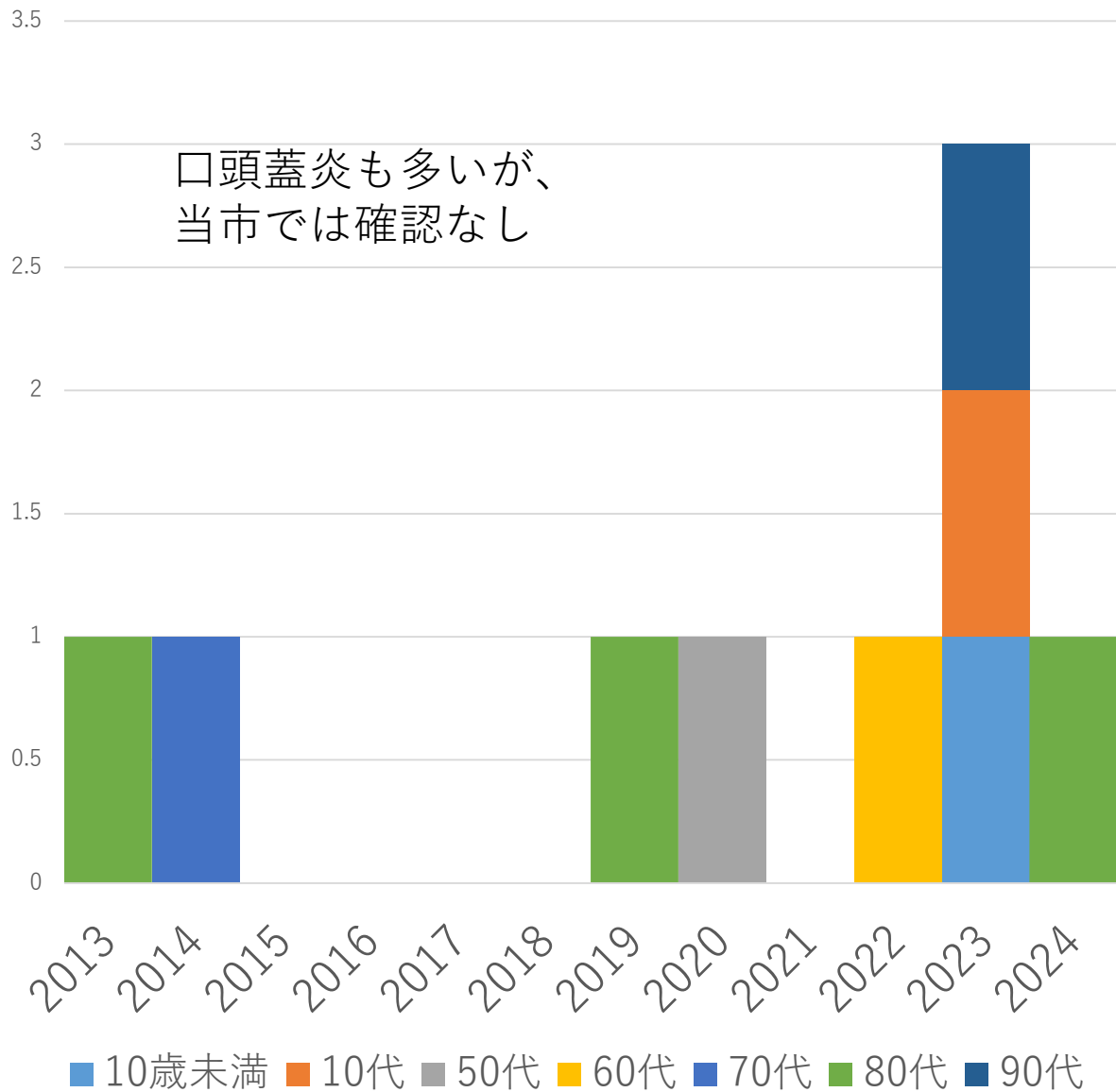
(iii) 侵襲性肺炎球菌感染症



侵襲性インフルエンザ菌感染症の発生動向（全国・県）



侵襲性インフルエンザ菌感染症（岡山市）



届出年	年代	症状
2013	80代	発熱、肺炎、菌血症、その他(喘鳴、喘息)
2014	70代	発熱、菌血症
2019	80代	肺炎
2020	50代	発熱、菌血症、その他(腰痛、下腹部痛)
2022	60代	発熱、肺炎
2023	90代	発熱、肺炎、菌血症
2023	10代	発熱、肺炎、菌血症
2023	10歳未満	頭痛、発熱、嘔吐
2024	80代	発熱、嘔吐、肺炎、菌血症

表. COVID-19の流行拡大による最初の緊急事態宣言（7都府県対象）が発出された2020年第15週の前後各52週間（宣言前：2019年第16週～2020年第15週、宣言後：2020年第16週～2021年第14週）に診断され届出された侵襲性インフルエンザ菌感染症（IHD）の特性

	宣言前（n=484） 2019年第16週～2020年第15週 n（%）		宣言後（n=183） 2020年第16週～2021年第14週 n（%）	
性別				
男性	265	(55)	101	(55)
年齢分布				
0-4歳	57	(12)	24	(13)
5-14歳	16	(3)	6	(3)
15-59歳	68	(14)	25	(14)
60歳以上	343	(71)	128	(70)
年齢中央値（四分位範囲）	74	(50-85)	72	(50-85)
病型*				
髄膜炎	17	(4)	7	(4)
肺炎	271	(56)	77	(42)
感染巣不明の菌血症	169	(35)	84	(46)
その他	27	(6)	15	(8)
届出時転帰				
死亡	23	(5)	8	(4)